

第 14 回(平成 20 年度第 4 回) ISO/SR 幹事会 議事録

1. 開催日時 : 平成 20 年 10 月 10 日 (金) 14:00~16:00

2. 開催場所 : 都道府県会館 4 階 410 会議室

3. 出席者 : 【敬称略・五十音順】 出席者(○)、欠席者(×)

委員:松本 恒雄(一橋大大学院)○、足達 英一郎(日本総合研究所)○、稲岡 稔
(セブン&アイ・ホールディングス)○、逢見 直人(連合)×、大久保 暁
子(連合)△(代理:青木)、長見 万里野(消費者協会)○、熊谷 謙一(連
合)○、黒田 かをり(CSO ネットワーク)○、斎藤 仁(経団連)○、佐
野 真理子(主婦連合会)○、下澤 嶽(JANIC)○、関 正雄(損保ジャパ
ン)○、富田 秀実(ソニー)○、深田 静夫(経団連/オムロン)○、藤代
尚武(経済省)△(代理:濱坂)、矢野 友三郎(NITE)×

関係者:宮澤 武明(経産省)○

オブザーバー:三井 清人○

事務局:岡本 裕○、佐藤 恭子○、櫻井 三穂子○(以上 JSA 記)

4. 議事次第:省略(議事次第参照)

5. 配布資料:省略(議事次第参照)

6. 議事概要:

6. 1 議事、資料及び前回の議事録の確認

事務局から、議事及び資料の確認が行われた。追加議事提案もなく、議事次第案は異議無く了承された。

また、幹事会規約第 7 条 2 項の成立条件に照らして、今回の幹事会がその条件を満たすことを報告し、確認した。

6. 2 次回国内委員会の議題の確認

資料 WGI-14-2 にしたがって、10 月 16 日(木)に開催する第 21 回 ISO/SR 国内委員会の議事次第(案)を確認した。

足達委員の報告は第0章から第4章までとし、第5章は第7章とまとめて深田委員から報告を行うことを確認した。

また、10月9日にWG事務局からエキスパート宛てに意見照会のあったSRイニシアティブ(N156)についても、次回国内委員会の議題に加えることとなった。

6. 3 サンチャゴ総会の報告及び意見交換

資料 WGI-14-3 にしたがって、国内委員会へのサンチャゴ総会の報告内容について確認した。

6. 4 CD コメント・投票プロセスの再確認

資料 WGI-14-4 にしたがって、CD 段階でのコメント・投票のプロセスについて再度確認した。

<主な意見>

- ・ コメントと投票の両者の関係は? 「賛成」は、本文が変わろうが変わらないが賛成ということなのか?
→投票ポジションは、コンセンサスコメントを並べてみて、コメントの重要度によって決めるもの。
→技術的なコメントを並べると「反対」になってしまう。ジェネラルな観点も必要。ステークホルダーとして譲れる/譲れないということとは別に、日本としてどうしたいのかというコメントも出していくべき。
→CD 投票は、ケベック総会で DIS にすることを前提に賛成かどうかということであり、手放しで賛成という意味ではないと理解している。フル・コンセンサスコメントと一部反対コメントは扱いが違ってくるというので、フル・コンセンサスコメントを目指すべき。
→原則として、フル・コンセンサスを目指す。幹事会では、分かれている意見をどのようにしてフル・コンセンサスにするかという議論を行っていきたい。
- ・ 次回の国内委員会でも、プロセスの再確認と今後のスケジュールにもっと時間を割くべき。今後は国内委員会が中心となるということを盛り上げていただきたい。
→プロセスの再確認と今後のスケジュールについてもっと時間を取るよう、次回の国内委員会の議題の時間配分を調整する。

6. 5 今後のスケジュールの確認

事務局より、資料 WGI-14-5 にしたがって今後のスケジュール案について説明があ

った。

次回の幹事会は、11月6日（木）9:00～11:00に開催することとなった。議題は、IDTFポツダム会議の報告、SRイニシアティブ（N156）への対応。

<主な意見>

- ・ 「ISO 26000が発行されたら一体何が起こるのか?」「認証しなくてはいけないのか?」「どのような影響があるのか?」などといった一般からの疑問に答えるべく、そろそろ国内委員会として取りまとめてメッセージを発信していく必要があるのではないか。
→CDが発行された際にポイントをまとめて国内委員会のWebサイトに掲載することも考えていきたい。
→事例WGとも並行して議論してはどうか。
→12月11日に発行されるCDを見ながら検討することとしてはどうか。

以 上